

栗花落 光(つゆり・ひかる)先生

株式会社FM802 代表取締役専務

1948年 京都市生まれ。

同志社大学経済学部卒業後、

ラジオ大阪(大阪放送株式会社)入社。

報道部 放送記者を経て、制作部で音楽番組中心に担当。

1988年 株式会社FM802に開局メンバーとして参加。

編成部長、常務取締役を経て2007年から代表取締役専務。

参考 : funky802.com

radiko.jp



〈講義概要〉

株式会社FM802の代表取締役専務としてメディア業界の第一線でその発展に尽力する栗花落光氏が、FMラジオ局の歴史と展望についての講義を行った。

講義ではまず、FMラジオ局の歴史について、FM802のビジネス戦略を中心に様々な角度から分かりやすく解説した。「ヘビーローテーション」というFM802独自のビジネス方法によってラジオからヒット曲を生み出し、80年代後半の音楽シーンに影響を与えたことや、扱う音楽を限定するという主張を持ってビジネス展開を続けていること、そして現在もシェアを保ち続けていることなど、独自性を持ったマーケティングの大切さを示した。

さらに、デジタル化に伴う多チャンネル時代の到来と今後の展望について最新の情報を紹介し、多チャンネル化に伴い「コンテンツの質・魅力が問われる時代」であることや、これからのメディア産業を考えるにあたり、「ローカル、更にはクラス・パーソナルメディア」が重要なポイントとなることを提示した。多くの人にラジオを楽しんでもらい、ラジオを通じたコミュニティを拡げるために、デジタル化に対応した様々な開発に挑戦していく姿勢を示し、ラジオや音楽に対する栗花落氏の熱い思いは学生の心に強く響いた。

〈受講生の感想〉

“Listen to the music”ではなく、“Meet the music on the radio”という言葉が印象に残りました。自分で選択して音楽を聞くのではなくラジオで音楽に出会うということに納得しました。ラジオをなくさないための様々な取り組みをしていると知り、とても魅力を感じました。
立命館大学・法学部・3回生

ラジオ局の歴史について学び、音楽産業を支えていることを知りました。また、「聴く」という行為に特化したラジオ文化の良さについて考えることができました。先生のラジオへの熱意がとても伝わり、ラジオに対する自分のイメージが変わりました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

ラジオの変遷は大変興味深かったです。独自の方針やこだわり、主張を持って放送することはとても必要なことだと思いました。伝統を守るだけでなく時代に沿った発展を遂げている点に感銘を受けました。ネットの活用による双方向的なコミュニケーションの推進をしているところも興味深かったです。

立命館大学・文学部・4回生

デジタル機器の普及によってラジオとの付き合い方も大きく変わっていることが分かった。デジタル時代のラジオ局とリスナーの関係は昔とは大きく違うものになっていて、今後も成長していくと思った。

立命館大学・産業社会学部・4回生

ラジオにしかできないこと、ラジオだからできることを追求されているということで大変興味深かった。「曲と出会う」ということは、確かにラジオでしか得られない感覚だと思ったし、そこから新しい感性を生み出すことができるのではないかと思った。

立命館大学・法学部・3回生

テレビのデジタル放送への移行がラジオにも変化を与えていることやインターネットとラジオとの関わりがここまで進んでいることを学ぶことができた。デジタル化の中でラジオがメディアと結びつきながら盛り返していることを知り、ラジオはまだまだ可能性を持っているのだと思った。

立命館大学・産業社会学部・1回生

